

令和2年度 データヘルス計画 個別保健事業評価について

1. 中長期目標及び関連する短期目標の達成状況

中長期目標	基準値※1	実績値※2	R5目標値	関連する短期目標	基準値※1	実績値	R5目標値
	H28.5	R2.5(※はR1)			H28	R1	
虚血性心疾患・脳血管疾患・糖尿病性腎症の減少 被保険者数に対する患者数を増加せず、入院患者を減らす。				メタボ該当者・予備群の減少	191人(36.2%)	162人(33.8%)	20年度から25%減
虚血性心疾患患者数を維持する	39名(4.9%)	39名(5.6%)	維持	健診受診者の高血圧者の減少(160/100以上)	8.1%	6.5%	減少
脳血管疾患患者数を維持する	25名(3.1%)	27名(3.9%)	維持	健診受診者のHbA1c有所見者の減少	8.1%	10.6%	減少
糖尿病性腎症による透析導入患者数を維持する	6名(0.8%)	2名(0.3%)	維持	健診受診者の脂質異常者の減少(LDL140以上)	24.6%	18.3%	減少
虚血性心疾患入院患者数の減少(被保険者千人あたりレセ件数) ※	0.755	0.394	減少	特定健診受診率の向上	73.4%	74.1%	70.0%
脳血管疾患入院患者数の減少(被保険者千人あたりレセ件数) ※	0.168	0.888	減少	特定保健指導率の向上	96.5%	95.3%	90.0%
慢性腎不全患者の入院患者数の減少(被保険者千人あたりレセ件数) ※	1.007	0.197	減少				

3. 中長期目標・短期目標の達成状況からみる目標の見直しの必要性について

達成状況(未達成であればその要因)
 ・中長期目標
 虚血性心疾患・脳血管・糖尿病性腎症の新規透析患者数については患者数が増加していないが、被保険者数が減少しており若干の増加傾向となっている。しかし、H30年度から新規透析患者が発生していない。入院患者については、年度により大きく差が出ている。入院患者の年齢構成を比較したところ虚血性心疾患及び脳血管疾患でH28年度に40代で入院があったが、R1年度には60代以上のみとなっている。若年者に入院が発生していない。
 ・短期目標
 特定健診受診率、特定保健指導率は国の目標を達成。メタボに関しては、目標達成に至らない。
 目標の見直しの必要性について
 中長期目標は、医療費では被保険者数が少なく変動が大きい。第2期では疾患の患者、その中でも医療費の大きい入院患者を減らすことで医療費の削減を目指すこととした。
 短期目標のメタボ該当者・予備群の減少については、国の第3期特定健診等実施計画においてメタボ該当者等には約50%の服薬者が含まれており、この数値では特定保健指導の効果を評価できないため特定保健指導者数の減少を目標としている。そのため、町でも変更し、特定保健指導対象者の減少率の減少を短期目標とする。他の項目については、虚血精神疾患、脳血管疾患、人工透析等のリスク項目であるため継続することとする。

2. 個別保健事業の実施状況と、短期目標との関連及び評価

保健事業実施計画	事業概要	アウトカム			アウトプット		ストラクチャー		プロセス		短期目標との関連及び評価 (短期目標の達成状況から、個別保健事業の見直しの必要性があるか等検討してください)	
		評価指標	平成30年度実績値(B)	令和元年度実績値(B)	令和元年度目標値(C)	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和元年度実施状況	令和2年度改善状況	令和元年度実施状況		令和2年度改善状況
糖尿病性腎症重症化予防	健診結果から対象者の抽出 ・医療機関未受診者 健診結果に受診勧奨用の文書及び医療機関からの受診結果の返信用はがきを同封し郵送。 ・糖尿病治療中のコントロール不良者 対象者に訪問し、受診・服薬の状況の確認。検査結果の身体への影響・食事について保健指導の実施。糖尿病連携手帳で医療機関と連携。 ・医療機関未受診者・コントロール不良者共に3~4カ月後を目途に訪問し、検査結果の確認し、保健指導の実施	受診勧奨対象者の医療機関受診率	81.0%	83.3%	100.0%	対象者21人 受診者17人 全員指導実施	対象者 12名 受診者 10名 全員指導実施	・令和元年度保健師が1名減となり、保健師 2名、管理栄養士1名の体制で実施。 ・KDBシステムについては、保健師・管理栄養士ともにいつでも使用可である。 ・地区担当制で実施。	・保健師 1名増となったが、保健師1名が衛生班長と兼務となったため、保健師の増加の体制とはならなかった。 ・地区担当制で実施。新人保健師と保健衛生班長は一緒に地区を担当。	・対象者に合わせた保健指導教材を使用。 ・KDBシステムから受診・服薬の状況を確認。 ・未治療者の中には定期的に糖尿病の検査を実施している者もいる。 ・糖尿病治療なし6.5以上22人(4.6%)(H30 3.9%) 治療中7.0以上 43人(9%)(H30 6%)となっている。	・訪問時にはKDBで受診・服薬状況を確認してから実施。 ・糖尿病未受診者には、服薬はなくても定期的な検査の実施している対象者に含まれているため、対象者の選定も検討が必要。 ・重症者に対して重点的に実施する予定。	・特定健診受診率、特定保健指導率については、国の目標を達成している。健診・保健指導については、疾病の予防、早期発見、重症化予防のためには重要であるため継続し受診率の向上に努めていく。 特に若年の年代(40歳~64歳)の受診率において国の目標を達成しているが、さらに受診者を増やすように受診勧奨を実施していく。 令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症のため健診の延期、日数の減少、秋の集団健診の中止、施設健診への不安等受診控えの傾向がみられている。
	糖尿病治療中のコントロール不良者の訪問指導率	90.0%	80.6%	100.0%	対象者 50人 指導者 45人	対象者 36人 指導者 29人						
	訪問指導後の検査値の改善率(HbA1c等)	48.3%	47.1%	60.0%	訪問指導者 45人中 その後の結果把握者 29人 HbA1c改善者 14人	訪問指導者 29人 結果把握 17人 検査値改善 8人						
虚血性心疾患・脳血管疾患重症化予防	・受診勧奨者に対しては検診結果郵送時に受診勧奨の文書及び受診結果の返信用はがきを送付。 ・対象者を健診結果から抽出し、優先順位を決定し保健指導を実施。 ・2次検査として頸部エコー検査を実施。 ・KDBシステムから受診・服薬の状況を確認。 ・受診勧奨値の者であって3~4カ月後でも未受診者については、郵便で再受診勧奨を実施。	高血圧Ⅱ度以上対象者の減少(対象者の割合)	6.1%	6.5%	減少	31人 治療なし 14人 治療中 17人	31人 治療なし 14人 治療中 17人					
		高血糖治療なしHbA1c 6.5以上 治療ありHbA1c 7.0以上	10.0%	10.6%		51人 治療なし 20人 治療中 31人	51人 治療なし 15人 治療中 36人					
		LDLコレステロール治療なし140以上 治療あり160以上	19.7%	16.3%		100人 治療なし 95人 治療中 5人	78人 治療なし 75人 治療中 3人					
		中性脂肪300以上	1.8%	1.7%		9人 治療なし 6人 治療中 3人	8人 治療なし 7人 治療中 1人					
		メタボリックシンドローム該当者(2項目以上)	23.2%	24.6%		該当者 118人中 3項目該当 39人	該当者 118人 3項目該当 47人					
		腎専門医紹介基準対象者	2.5%	4.6%		13人 治療なし 2人 治療中 11人	22人 治療なし 8人 治療中 14人					
		心電図所見においてST所見・心房細動	25人	16人		心房細動 3人	心房細動 6人					
受診勧奨値の対象者の受診率(血圧・脂質・血糖)	34.6%	52.7%	対象者 176人 (受診者102人)	対象者 131人 受診者 69人								

保健事業実施計画	事業概要	アウトカム				アウトプット		ストラクチャー		プロセス		短期目標との関連及び評価 (短期目標の達成状況から、個別保健事業の見直しの必要性があるか等検討してください)
		評価指標	平成30年度実績値(B)	令和元年度実績値(B)	令和元年度目標値(C)	平成30年度実績値	令和元年度実績値	令和元年度実施状況	令和2年度改善状況	令和元年度実施状況	令和2年度改善状況	
健診の普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 春・秋の集団健診・施設健診・人間ドック・受診時の検査結果活用等の健診機会提示し受診勧奨を実施。 未受診者に対しては、個別に通知・訪問・電話等で受診勧奨を実施。 	特定健診受診率(40～64歳)	75.5% (66.4%)	74.1% (62.4%)	70.0%	対象者 673人 受診者 508人	対象者 648人 受診者 480人	<ul style="list-style-type: none"> 春・秋の集団健診、施設健診、人間ドックの受診機会を設定している。 新型コロナウイルス感染拡大により春の集団健診の延期。11月に実施となったため秋の集団健診が中止となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 春の健診後未受診者に対して施設健診のお知らせ及び受診勧奨のための訪問を開始。さらに、未受診者に対して秋の集団健診のお知らせを実施。さらに未受診であれば、検査結果活用のための医療機関への受診勧奨を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 春から施設健診のお知らせを実施したが、受診者は少ない状況である。新型コロナウイルス感染症の関係で医療機関へも行きたくないとの声も聞かれる。今後、未受診者へは再度施設健診のお知らせ、人間ドックの受診勧奨を実施予定。 		
		若年者健診受診率	58.0%	65.0%	増加	申し込み者69人 受診者40人	申し込み者 60人 受診者 39人					
特定健診未受診者対策	未受診者への受診勧奨率	60.4%	40.9%	増加	対象者 235人 訪問者 142人	対象者 133人 訪問実施者 92人						
	リピーター率	89.3%	81.6%	90.0%	453人	426人						
特定健診受診者へのフォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> 受診者には、健診結果に個人の過去の健診結果の経年表を同封。健診結果について訪問し保健指導を実施。 	健診受診者への保健指導率	79.3%	84.8%	85.0%	対象者 508人 指導者 403人	対象者 480人 指導実施者数 407名	<ul style="list-style-type: none"> 保健師2名、管理栄養士1名で実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健師3名に増員となったが、1名は衛生班長との兼務であり、実働が難しい状況となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 優先順位をつけて訪問する。また、重症度に合わせて訪問回数を決定し重症者を減らしていくことを重点的に実施予定。 		<ul style="list-style-type: none"> 施設健診受診者へは順次健診結果を持参し、保健指導を実施。 12月に集団健診結果がわかるため冬期間に訪問実施予定 重症者に対して重点的に実施する。
ジェネリック医薬品の普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> 差額について個別通知を実施。 広報及びパンフレットを配布しジェネリックについて知識の普及を図る。 	ジェネリック医薬品利用率(年間利用率の平均)	67.9%	69.7%	70.0%			<ul style="list-style-type: none"> 国保担当及び保健師で情報共有。 国保の運営協議会で利用状況を説明。 	<ul style="list-style-type: none"> 国保診療所と連携している。 	<ul style="list-style-type: none"> 国保診療所において10月よりジェネリック医薬品に切り替えを実施。 		
適正受診・適正服薬の推進	<ul style="list-style-type: none"> 国保独自情報システムより対象者の抽出。 医療費通知の送付。 保健師の服薬の確認・保健指導の実施。 	受診指導・服薬指導実施率	69.0%	67.6%	80.0%	対象者 30人 指導者 21人	対象者 34人 指導者 23人	<ul style="list-style-type: none"> 月に1度国保独自情報システムより対象者の抽出を実施。 		<ul style="list-style-type: none"> 対象者から現在の服薬の状況を確認し保健指導を実施。 		